

動労千葉破壊を目的の 政治的「有罪」判決弾劾

「6・12デッチあげ告訴事件」公判

日刊
動労千葉

83, 5, 21

No. 1344

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）九三九六（公衆）〇四七二二七二〇七

怒りもあらうたに、本部革マル反動分子を
全ての取場から追放・一掃しよう

千葉地裁・山中裁判長は、五月二〇日、いわゆる「六・一二事件」判決公判において、わが動労千葉の片岡一博君、吉岡一君に對し不当にも「罰金五万円」、「篠塚康則君に對し全く不当にも「罰金四万円」という断じて許すことのできない反動「有罪」判決をおこなった。どうしてこのようなデタラメなデッチあげの大弾圧を許すことができようか！三君とその家族はもとより、動労千葉一三〇〇の胸は怒りで煮えたぎっている。

労働者の風上にもおけないデッチあげ・タレコミ・告訴に走った嶋田、齊藤ら「本部」革マル反動分子を絶対に許さない。そして、そのデッチあげの事実を充分すぎるまでに知りぬいているが故にただただ動労千葉に打撃を与えんとする政治的・目的のみで「有罪」をこじつけ、新たな弾圧を画策している権力・裁判所、国鉄当局の悪らつな狙いを徹底的に弾劾し粉碎しなければならない。

「何の立証もできないが、とにかく動労千葉は有罪だ」
—— 論理破綻し反動的に居直る「判決理由」 ——

五月二〇日、十五時より開かれた法廷において「判決文」が読み上げられるや、三君はもとより、つめかけた傍聴席からは一斉に怒りの弾劾が叩きつけられた。この「判決」なるものは、過去16回にわたった公判でそのデッチあげ性がことごとくあばき尽され、「告訴状」が並べたてた「暴行」だとか「傷害」だとか「共同謀議」だとかのどの一つたりとも当然ながら全く立証すらできないことをさらけ出したものである。その事は、何の立証もできないにもかかわらず検察官が唯一動労千葉弾圧の政治的意図のみで求刑した「懲役6月」なるデタラメな求刑が完全に破綻していることを見ても明らかである。にもかかわらず反動司法は「何の根拠も具体的には示せないが、とにかく有罪にしなければならない」という反動的・政治的・目的のみで「罰金」刑に有罪という悪質な攻撃に逃げこんだのである。何という息なやり口であることか！三君の無実と正義性はますます鮮明であり、動労「本部」革マル反動分子「国家権力」「国鉄当局」の完全に一体化した反動の破産と凶暴化はますます明らかとなっている。われわれは三君を守り、三君と共にこの密集した反動をうちくだいて勝利への前進をちかうものである。

完全無罪獲得・「本部」革マル分子一掃の日まで闘いぬく
—— 三君が鮮明な決意を表明 ——

裁判闘争終了後、教育会館において三君の名を越す組合員がつめかけて、反動判決弾劾・公判報告集会が開かれた。どの顔も、伝え聞いた不当判決に怒り、「本部」革マルへの怒りが充満している。弁護団を代表して菅野弁護士から判決理由の破綻性と不当性があばき出された。怒りを秘めつつき然と闘いぬいた片岡・吉岡・篠塚三君が満場のわれんばかりの拍手の中で登壇し、「本部」革マル分子を一掃し尽すまで、無罪・勝利をかちとるまで断固として闘いの先頭に立つとの鮮明な決意が表明された。中野書記長よりの総括と今後の方針提起をうけ、完全無罪獲得まで一三〇〇一丸となって闘いぬくことを確認して、最後に関川委員長の音頭で三君を先頭に意気高く団結ガンパローを三唱して集会を終了した。



「無罪獲得・革マル分子一掃」最後の勝利の日まで闘う決意を表明する三君。



反動判決に怒りをこめ、つめかけた仲間、絶対に三君を守りぬくことを誓い合った。